

【受賞報告】 9月17日、18日に札幌にておこなわれた第64回北日本産科婦人科学会学術講演会において、附属病院産科婦人科 医員 當麻絢子（現：大館市立総合病院 産科婦人科所属）が優秀演題賞を受賞しました

9月17日、18日に札幌にて第64回北日本産科婦人科学会学術講演会が行われました。この学会は北海道、東北、北陸の15大学とその関連病院の産科婦人科医達が基礎から臨床にわたる演題を発表し、議論を行う場です。今回は144の演題から優秀演題賞の1つに選んでいただきました。

演題の内容は「精液を用いた子宮内膜NK細胞刺激法についての検討」というものです。原因不明の不育症にはNK細胞の異常が関わっている可能性があると言われており、一般的に検査の際にはNK細胞を試薬で刺激し、産生されるサイトカインを測定しています。しかし薬品での刺激は人為的で生理的な産生を反映しているとは言い難いため、妊娠成立時に必ず接触のある精液を用いることで、より生理的かつカップル特異的な検査法となり得るのではないかと考えました。同様の検討は海外文献を検索しても類を見ないため様々な予備実験を要しましたが、研究室研修で配属された学生の方々にも協力していただきここまで形にすることができました。ご指導いただいた研究班の先生方、臨床の合間に実験を行うことに協力して下さった臨床の先生方、研究室研修の学生方に感謝申し上げます。

大変興味深く、多くの可能性を秘めている分野ですので、今後も実験を継続し成果を臨床の場にも還元できるようになればと思っております。



(左) 産科婦人科学講座 横山良仁教授と (右) 當麻絢子先生